

コロナ禍に立ち向かう組合の挑戦

協同組合秋田卸センター



〔協同組合秋田卸センターのホームページより〕

組合の紹介と事業の背景

協同組合秋田卸センター（辻昭久理事長）は、1970（昭和45）年に流通の合理化を目的に市内卸売業者39社により設立され、昨年には創立50周年を迎えた歴史ある組合です。

実施している共同事業は、会館施設の賃貸や共同駐車場の運営、紙類等リサイクル事業、福利厚生や人材育成事業など多岐にわたっています。

コロナ禍においても、新しい時代の流れや変化に機敏に対応していくため、50周年の節目を契機に様々な取り組みを始めています。

取組内容

その一つとして、愛称「あぎいね卸町」とロゴマークを作成しました。

この愛称は、「商い」と「飽きが来ない」を表す秋田弁「あぎね」と「秋田がいいね」を掛け合わせた造語で、「あぎーね」と読み、ロゴマークは、団結と一体感を表しています。

また、今年9月から10月にかけて組合員企業の従業員やその家族など約1,000人を対象に組合会館において新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施しました。

これまでもインフルエンザワクチン集団予防接種を行っており、今回の職域接種にもその経験が活かされ、大き



〔コロナワクチン職域接種の様子〕

なトラブルもなく円滑に接種を進めることができました。組合員企業からは、不足していたワクチンを迅速に接種できたことに感謝の言葉が寄せられた他、団地組合のメリットを各社が実感するとともに協同の力を再認識することができました。

さらに、若手経営者を中心に青年部「青草会」を立ち上げ、隔月に例会を開催し、自社の取組について持ち回りで発表を行うなど情報交換に努めています。

この他、SDGsの一環として今年9月より、使用済みペットボトルキャップを集めて、世界の子どもたちにポリオワクチンを贈る取組をスタートしました。

11月19日には秋田県SDGsパートナー登録制度の認証を受けるなど、取り組みを進めています。

期待される効果と今後の活動

当組合は、組合員と組合との協力体制が整っている「団結団地」であり、わずかな準備期間にも関わらず、コロナ



〔ペットボトルキャップの回収ボックス〕

ワクチン職域接種が行えたことも組合員企業と組合の団結の成果です。

アクセスやビジネス環境の良さ、組合加入のメリットなどを発信し続けるだけではなく、今後も組合員が「ここにとどまりたい」と思ってもらえるよう取り組んでいくこととしています。

辻理事長は「卸町での商売を通じ、多くの方々から愛され信頼されるよう、『あぎいね卸町』として努力してまいります。」と述べています。

【協同組合秋田卸センター】

- ▶所在地／秋田市卸町三丁目6番3号
- ▶代表理事／辻 昭久
- ▶組合員数／66名
- ▶主な事業／会館施設賃貸、環境整備、人材育成事業、交流サポート事業
- ▶設立／昭和45（1970）年7月18日